

大会行事予定表

1. 会場：日本教育会館 8F
 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2
 第1会場：801, 802 号室
 第2会場：803 号室
 第3会場：804 号室
2. 会期：5月27日（水）、28日（木）、29日（金）
3. 行事

行事		
大会（研究発表） 〃	（第1, 第2, 第3会場）	5月27日（水）09:00~12:30 13:30~18:00
大会（研究発表） シンポジウム 総会 学会賞, 藤原賞記念講演会 懇親会	（第1, 第2, 第3会場） （第1~第3会場） （ 〃 ） （ 〃 ） （大手町第3合同庁舎地下2階-気象庁東隣り）	5月28日（木）09:00~12:00 13:00~14:30 14:30~17:00 17:30~
大会（研究発表） 〃	（第1, 第2, 第3会場）	5月29日（金）09:00~12:30 13:30~17:00

大会委員長 岸保勘三郎

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 山本賞授与
7. 昭和55年度・事業経過報告
8. 〃 会計決算報告
9. 〃 会計監査報告
10. 昭和56年度予算案・事業計画案の審議
11. その他
12. 気象学会賞受賞記念講演
13. 藤原賞受賞記念講演

昭和56年春季大会

() : 講演番号, — : 座長

	第1会場		第2会場		第3会場	
5月27日 (水)	09:00~ 12:30	中小規模現象 (101~116) — 榎原 均 —	09:00~ 12:30	接地境界層 (201~215) — 竹田 厚 —	09:00~ 12:30	エアロゾル (I) (301~316) — 小野 晃 —
	13:30~ 18:00	大気大循環 (117~135) — 木田 秀次 — — 重久 陽亮 —	13:30~ 18:00	接地境界層・エクマン層 (216~232) — 島貫 陸 —	13:30~ 18:00	エアロゾル (II) (107~321) — 児島 紘 — 大気化学 (322~329) — 猿橋勝子 — 大気電気 (330~335) — 北川信一郎 —
5月28日 (木)	09:00~ 12:00	力学 (136~148) — 宇加治一雄 —	09:00~ 12:00	エクマン層 (233~246) — 木村竜治 —	09:00~ 12:00	測器 (336~348) — 根本 茂 —
	13:00~ 14:30 14:30~ 17:00	シンポジウム 総会・記念講演				
5月29日 (金)	09:00~ 12:30	局地循環 (149~163) — 千秋鋭夫 —	09:00~ 12:30	熱帯気象・台風 (247~261) — 山岬正紀 —	09:00~ 12:30	放射 (349~364) — 荒生公雄 —
	13:30~ 17:00	衛星資料の利用・総観 気象 (164~179) — 山下 洋 —	13:30~ 17:00	気候 (262~277) — 河村 武 —	13:30~ 17:00	雲物理 (365~380) — 武田喬男 —

注) 大会参加費 会員 500円, 学生会員 300円, 一般 1,000円・懇親会費 1,500円

シンポジウム「惑星の気象」

- 日時 大会第2日(28日(木))
- 会場 第1~第3会場
- 座長 松野太郎(東大理学部)
- 話題提供者
森山 茂(日大理工学部): 惑星の大気について
松田佳久(東京学芸大学): 金星大気の大循環

講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること。
2. スライドの上下を揃え、分かるようにすること。
3. 講演時間は12分しかありませんので、スライドの標準枚数は6~8枚です。
4. 12枚を越えるときは枚数を減らしていただくことがあります。
5. 持ち時間(質疑を含めて12分)を超過したときは中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日(5月27日)09時00分~12時30分

第1会場 中小規模現象

座長 楠原 均

101. 檜尾守昭・宮本茂樹・岡田憲治(気大):メソ気象解析・短時間予報に有効なマイクロコンピュータシステム
102. 夏木尚平・武田喬男(名大・水圏研):気象衛星ノア6号とRHIレーダによる降水雲の同時観測(I)一降水雲の構造を中心に—
103. 加藤央之(北大・環境・院):北海道における地上風の特徴——主成分分析法による解析——
104. 平沢正信(気象庁・予報):雷雨性降雨系と地形および各種気象要素との関係
105. 後町幸雄(京大・防災研):鈴鹿山脈周辺の大雨の特性(6)
106. 櫃間道夫(気象庁・予報):本州南岸沖を西進して発達する中規模の雲システム(統報)
107. 長谷川隆司・松本誠一・三木芳幸(気象衛星センター):T_{BB}分布と降水量分布からみた小型寒冷渦
108. 松本誠一・長谷川隆司(気象衛星センター):大雨を伴う小型寒冷渦の構造
109. 穂積邦彦・遠藤辰雄・谷口恭・孫野長治(北大・理):日本海側豪雪における日本海収束帯の役割
110. 穂積邦彦・谷口恭・遠藤辰雄(北大・理):寒気吹き出し時の降雪の地上移動観測とSnow Crystal Sonde 観測
111. 元木敏博・里見穂(気象衛星センター):GMSデータから求めた雲移動ベクトルによる季節風の解析(第一報)
112. 八木正允(気研・予報):季節風吹き出し時の雪雲の解析
113. 石川裕彦(京大・防災研):負渦度領域を持つ軸対称渦の安定性
114. 相原正彦(仙台管区):中規模山岳波によるエネルギー輸送について
115. 加藤政勝(気象衛星センター):76.2km格子間隔プリミティブ・モデルを用いての中間規模(土佐沖低気圧)じょう乱の数値実験(ケース・スタディ)

116. 猪川元興(気研・予報):3次元積雲対流の数値実験(I)

第2会場 接地境界層

座長 竹田 厚

201. 和田誠・山内恭・前晋爾(極地研):大きな擾乱に伴う南極みずほ基地の気象変化(POLEX-South)
202. 森征洋(香川大・教育):南鳥島における地表風の日変化について
203. 伴野登・山下喜弘(気研・衛星):気象観測鉄塔で観測した風の風配図について
204. 田中正昭(京大・防災研):宇治川気象観測塔(京都市南部)で観測された霧について
305. 林泰一・光田寧(京大・防災研):突風前線の観測について(第二報)
206. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理):強風の性質(その2)
207. 岩谷祥美(日大・生産工)・光田寧・塚本修(京大・防災研):多良間島で測定された強風の乱れの平均流方向の空間相関(その2)
208. 近藤純正・佐藤威(東北大・理):カルマン常数kの決定(3)補正の効果とkの値
209. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理):接地境界層の発達の研究(Ⅲ)
210. 水野建樹(公資研):熱的に不安定な境界層中の乱流相似則について
211. 文字信貴・林泰一(京大・防災研):自由対流と輸送機構
212. 安枝伸子・根本茂(お茶大・理):階段状地形の後流(Ⅱ)
213. 北林興二・横山長之(公資研):安定成層境界層の風洞実験(その2)
214. 竹内秀子・雨谷純(筑波大):X-type熱線風速計による乱流統計量の測定
215. 加藤真規子(お茶大・理):乱流拡散における拡散パラメータと乱流統計量

第3会場 エアロゾル(I)

座長 小野 晃

301. 小林愛樹智・岡田菊夫・原田奈遠美・武田喬男

- (名大・水圏研)：大気中のエアロゾルによる光散乱係数の変動(Ⅱ)
302. 村林 成・岡田菊夫・岩坂泰信・武田喬男(名大・水圏研)：エアロゾルと水蒸気の空間分布の相互関係
303. 北川信一郎・須田徳幸・村井 誠(埼玉大・工)：エアロゾルと風およびガス汚染との関係——夏期浦和市における測定・解析結果——
304. 高村民雄・宮崎道夫・森本春男(防衛大・地学)：日本近海の太平洋上で観測されたエアロゾルの分布構造
305. 岡田菊夫・原田奈遠美・小林愛樹智・林田佐智子・武田喬男(名大・水圏研)：御在所岳・四日市におけるエアロゾルの観測(Ⅰ)
306. 長屋勝博・岩坂泰信・武田喬男(名大水圏研)・前川徳昭・永井力郎・内藤良三・新家淳治(三重県環境科学センター)：四日市における夏季混合層のライダー観測(Ⅰ)
307. 伊藤朋之(気研・物理)：南極大気中のエイトケン粒子の粒径分布について
308. 伊藤朋之(気研・物理)：南極大気中のエアロゾルの起源に関する研究(2)
309. 小野 晃(名大・水圏研)・伊藤朋之(気研・物理)・岩井邦中(信大・教育)：南極域大気エアロゾルの性状とその起源について
310. 岡田菊夫・武田喬男・藤吉康志(名大・水圏研)：イヌヴィークにおけるエアロゾルの挙動(POLEX-North)
311. 田端功・高橋克己・穂田巖・岡田芳隆・内藤恵吉(気研・衛星)：ライダーによる成層圏エアロゾルの観測
312. 岩坂泰信・林田佐智子(名大・水圏研)：St. Helens 火山噴火に伴う成層圏エアロゾル層の変化(Ⅱ) レーザ・レーダ観測
313. 柴田 隆・藤原玄夫・広野求和(九大・理)：Mt. St. Helens 噴火による成層圏エアロゾル層のグローバルな分布と Lidar 観測の比較
314. 小林愛樹智・岩坂泰信(名大・水圏研)：成層圏エアロゾル層の形成(3)
315. 林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研)：成層圏エアロゾルがオゾン濃度分布に与える影響(Ⅱ)
316. 岩坂泰信(名大・水圏研/国立極地研)・藤原玄夫(九大理)・平沢威男・福西浩(国立極地研)：レーザレーダを用いた南極域中層大気探査計画

大会第1日(5月27日) 13時30分～18時00分

第1会場 大気大循環

座長 木田 秀次

117. 佐藤康雄(東大・海洋研)：Eliassen-Palm フラックスを用いた対流圏大循環の解析——序報——
118. 重久陽亮(気象庁・電計)：全球格子モデルへの Normal mode initialization の適用
119. 岸保勘三郎(東大・理)：中緯度対流圏における超長波うず度のスペクトラム強度
120. 黄栄輝・岸保勘三郎(東大・理)：冬期北半球多層モデル大気の地形と定常的な熱源の強制に対する応答
121. 三角幸夫(京大・理)：惑星間空間磁場境界通過に対する対流圏・成層圏の応答(Ⅰ)経度平均場
122. 幸野淳一・広野求和(九大・理)：成層圏突然昇温時のオゾン輸送の機構
123. 岩嶋樹也・中澤敦子(京大・理)：大気定常超長波の解析
124. 黄栄輝・岸保勘三郎(東大・理)：冬期北半球の地形効果によって励起される停滯波について
125. 廣田 勇・廣岡俊彦(京大・理)：赤道中層大気半年周期振動と Planetary Rossby 波との関係
- 座長 重久陽亮
126. 野田 彰・時岡達志(気研・予報)：大気大循環におけるエントロピー生成率
127. 木田秀次・千葉長(気研・予報)・桜井徹(気象庁・通報)：夏の対流圏に対するヒマラヤ山系の熱的影響の一面
128. 金光正郎(気象庁・電計・ECMWF) ヨーロッパ中期予報センターによる FGGE の Level III-b データの月平均湯について
129. 時岡達志(気研・予報)・堀部保弘(筑波大・院)：準地衡風乱流 closure モデルの検討
130. 時岡達志・山崎孝治・鬼頭昭雄(気研・予報)：

大気大循環モデルの中の大気境界層の振舞

131. 鬼頭昭雄・時岡達志・山崎孝治・谷貝勇(気研・予報): 全球2層大気大循環モデル(Ⅱ)
132. 山崎孝治・時岡達志・谷貝勇・鬼頭昭雄(気研・予報) 全球5層大気大循環モデル(Ⅰ)
133. 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・予報): 水収支解析(Ⅰ)
134. 山崎孝治・時岡達志・谷貝勇(気研・予報): 大循環モデルにおける雲と放射(Ⅰ)
135. 時岡達志・谷貝勇・山崎孝治・鬼頭昭雄(気研・予報): 1/6セクター 12層大気大循環モデル

第2会場 接地境界層・エクマン層

座長 島 貫 陸

216. 米谷俊彦・平松良夫・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について(12)
217. 大藤明克(気象協会・関西)・米谷俊彦・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 作物群落上の接地気層における渦度輸送について
218. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理): 乱流統計量の高度と安定度による変化
219. 甲斐憲次(筑波大・院): 接地層における乱流エネルギー収支と乱流特性について(2)
220. 安田延壽(東北大・理): 熱帯海洋上の大気境界層高度
221. 竹田厚(国立防災センター): 海面上の風速変動の σ/u^* について
222. 藤谷徳之助(気研・物理): 熱帯海洋上における乱流輸送過程の研究(MONEX)(3)
223. 近藤純正(東北大・理): 境界層の厚さについての議論
224. 横山長之・蒲生稔・山本晋(公資研): 非定常大気境界層の乱流構造モデル
225. 島貫陸・名越利幸(東京学芸大): 安定成層における乱流輸送の普遍関数について
226. 蒲生稔(公資研): 混合層の季節変化(その2)
227. 横山長之・水野建樹・山本晋(公資研): 晴夜安定層中の乱流と波動の測定(2)
228. 山下喜弘・花房龍男・伴野登(気研): 筑波気象鉄塔で観測された重力波
229. 平井伸治(筑波大・環境科学) 笹野泰弘・清水浩・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研)・河村武(筑波大・環境科学): 大型レーザーレーダーによる大気混合層発達過程の観測
230. 館木彌幸・岩井秀夫・阿部克也(高層气象台): 館野の日中の混合層の状況
231. 蒲生稔・山本晋・横山長之(公資研): 温度・湿度の飛行機観測
232. 山本晋・蒲生稔・横山長之(公資研): 混合層上部および上層安定層中の活流特性について(その2)

第3会場 エアロゾル(Ⅱ)

座長 児 島 紘

317. 小野晃・大和政彦(名大・水圏研): Sodium tetraphenyl boron 薄膜による個々のエアロゾル粒子中の NH_4^+ の検出
318. 小野晃・赤枝健治(名大・水圏研): 雲によるsulfate粒子の変質過程
319. 児島紘(東理大・理工): サブミクロンエアロゾルのwashoutについて
320. 木村勉・村上正隆(北大・環境)・遠藤辰雄(北大・理): 降雨におけるrain outの効果
321. 村上正隆・孫野長治(北大・環): 雪結晶によるエアロゾル捕捉実験——その1——

大気化学

座長 猿 橋 勝 子

322. 杉村行勇・鈴木款(気研・化学): 海洋上への金属元素降下量の推定
323. 広瀬勝己・土器屋由紀子・杉村行勇(気研・地球化学): 海洋大気浮遊塵中の金属元素の含量
324. 講演中止
325. 田中正之・中澤高清・青木周司(東北大・理): 大気中の二酸化炭素濃度の測定(Ⅱ)(数例のケーススタディ的観測について)
326. 広田道夫・村松久史(気研・高物) 桑島正幸・福井史雄(地磁気): 対流圏におけるハロゲン化炭化水素の寿命 北海道・女満別における CF_2Cl_2 , CFCl_3 の測定
327. 柴田隆・広野求和(九大・理): On the oxidation ratio of SO_2 which was injected into the stratosphere by the volcanic eruption
328. 樋口敬二・渡辺亜由・伏見碩二・山本勝弘・加藤喜久雄(名大・水圏研): 降雪の安定同位体組成の分布
329. 鈴木啓助(北大・環境): 札幌における降雪の化学的性質

大気電気

座長 北川 信一郎

330. 遠藤辰雄・播磨屋敏生・穂積邦彦・谷口恭・孫野長治(北大・理):水霰の電荷の測定例
331. 谷口 恭・遠藤辰雄(北大・理):長岡における降雪時の電気要素の変動
332. 遠藤辰雄(北大・理):降雪時の降水電流と空間電荷の量的比較

333. 竹内利雄・長谷正博・中田滉・高木伸之(名大・空電研):北陸豪雪時の雷
334. 舟木数樹・阪本清孝・田中良(埼玉大・工):落雷と雲放電における放電過程の比較——1980年夏期南関東における観測例——
335. 高木伸之・竹内利雄・仲野貴(名大・空電研):正極性落雷放電路について

大会第2日(5月28日)09時00分~12時00分

第1会場 力学

座長 宇加治 一雄

136. 吉崎正憲(東大・海洋研):有限振幅傾圧不安定波の安定波数域について(Ⅲ)
137. 新野 宏(東大・海洋研):回転系における水平シア流の安定性(その2)——弱非線形理論における平衡解の安定性について——
138. 里村雄彦(東大・理):発散のある水平シャー流の不安定(Ⅱ)数値実験
139. 玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理):amplitude vacillation 状態における帯状平均温度と熱輸送量
140. 三村和男・広田 勇(京大・理):大気波動の南北伝播と運動量伝達について
141. 遠峰菊郎・阿部成雄・岡山裕保(防衛大):等温位大気が2次元の山脈を越える場合の定常流について
142. 高橋正明(九大・理):定常散逸赤道波に伴う平均運動
143. 高野清治・瓜生道也(九大・理):突然昇温における wave-wave Interaction
144. 余田成男(京大・理):散逸のある力学系における周期変動および概周期変動
145. 宮原三郎(九大・理): $\omega^2=f^2$ 面に於ける慣性重力波の性質について
146. 山中大学・田中浩(名大・水圏研):中層大気の波動と乱流(第2報)——慣性内部重力波の臨界高度・転移高度での振舞
147. 廣田勇・福山薫(京大・理)・加藤進・深尾昌一郎・前川泰之(京大工):アレシボレーダーによる低緯度中層大気波動の解析
148. 福山薫・廣田 勇(京大・理)・加藤進・深尾昌一郎・前川泰之(京大・工):アレシボレーダー

による中間圏大気パラメータの観測

第2会場 エクマン層

座長 木村 竜治

233. 森 征洋(香川大・教育):日本各地の風の日変化の気候学的特性について
234. 荒川正一(気研・応用)・山田一茂(北陸農試)・戸矢時義・木村富士男(気研・応用):AMeDAS DATA を用いた北陸地方のフェーン解析
235. 孫野長治(北大・名)・中村力(北大・理):盆地冷却のメカニズムに関する観測の補遺
236. 平松 親・孫野長治(北大・環境研):札幌市の大気環境(Ⅱ)——石狩平野における海陸風前線のふるまいについて——
237. 楠田 信・阿部信男(大分高専):大分市における海陸風槽門の回転について
238. 渡辺 明(福島大):猪苗代湖周辺の風向・風速変動
239. 島野昌治(日科技研)・若松伸司(国立公害研)・油本幸夫(富山県・公害センター)・菊地立(千葉県・公害研):関東地方の風の立体構造(1)
240. 島野昌治(日科技研)・若松伸司(国立公害研)・油本幸夫(富山県・公害センター)・菊地立(千葉県公害研):関東地方の風の立体構造(2)
241. 吉野勝美(全日本空輸):伊東海洋観測塔における強風(おろし風)特性について
242. 枝川尚資・中島暢太郎(京大・防災研):琵琶湖の湖陸風(2)
243. 大河内康正(八代高専)・和方吉信(九大・理):海陸風におよぼす山岳の効果 三次元シミュレーション(序報)
244. 早川誠而・坂上務・元田雄四郎(九大・農):局地熱源による内部境界層の発達について

245. 古川武彦(気研・台風):地形性上昇流の雨に及ぼす効果(序報)——予備的数値実験——
 246. 近藤裕昭(公資研):斜面風といくつかのパラメータの関係について

第3会場 測器

座長 根本 茂

336. 土屋 巖(国立公害研):温湿度を一定にした風洞内の大型蒸発計からの蒸発
 337. 佐橋 謙(岡山大・教育)・土屋巖(国立公害研):蒸発しつつある水面近傍の温度分布
 338. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理)小堀泰宏(海上電機):超音波風速計資料の処理方法について
 339. 横山長之・林正康・山本晋(公資研):オブティカルファイバーを利用した乱流ゾンデ
 340. 横山長之・林正康(公資研)・伊藤芳樹・小堀泰宏(海上電機):可搬型微気圧計の試作
 341. 宮内正厚・八尾孝・嘉納宗靖・鈴木正(気研・高物)三宅行美(英弘精機):絶対放射計の試作
 342. 内藤玄一・渡部勲・徳田正幸(国立防災センタ

ー):マイクロ波散乱計の航空機搭載実験

343. 青木忠生・中島忍・加藤一靖(気象衛星センター):TIROS-N衛星データ処理システムの開発
 344. 岩坂泰信・村林成・武田喬男(名大・水圏研)・山下喜弘(気研・衛星)・林田佐智子(名大・水圏研): $H_2O+h\nu(Ly\alpha)\rightarrow OH^*+H$ を利用した対流圏上部及び成層圏の水蒸気測定法(I)
 345. 岩坂泰信・小林愛樹智(名大・水圏研):チューナブルレーザを光源とした相関分光技術の開発とその応用(II)
 346. 岩坂泰信・増沢敏行(名大・水圏研):対流圏・成層圏における SO_2 測定法(I)
 347. 高橋克己・田端功・穂田敏・岡田芽隆・内藤恵吉(気研・衛星):高層用高力出力ライダーによる観測(近距離を対象とした場合の観測について)
 348. 広原寿英(筑波大・環境科学)・笹野泰弘・清水浩・竹内延夫・奥田典夫(国立公害研)・河村武(筑波大・環境科学):スキヤニングレーザーライダーによる水平の平均風速ベクトルの測定

大会第3日(5月29日)09時00分~12時30分

第1会場 局地循環

座長 千秋 鋭 夫

149. 近藤裕昭(公資研):播磨地域における局地循環気象シミュレーション(その1)
 150. 小林博和・千秋鉛夫(電力中央研):海陸風循環内部における汚染質拡散の数値シミュレーション
 151. 吉川友章・原田朗・佐藤純次・戸矢時義・木村富士男・荒川正一・村山信彦(気研・応用):瀬戸内海の局地循環と大気汚染の中距離輸送について[1]特別観測のメソスケール解析
 152. 荒川正一・木村富士男・原田朗(気研・応用)・白崎航一(気大)・菊池幸雄(気象庁・長期)・村山信彦(気研・応用):瀬戸内海の局所循環と大気汚染質の中距離輸送について[2]数値シミュレーション
 153. 矢野直・小林隆久・佐藤純次・小出孝・原田朗・吉川友章・戸矢時義・北出寿江・村山信彦(気研・応用)・戸村健児(立教・原研):瀬戸内海の局地循環と大気汚染質の中距離輸送について(3)

——アクチバブル・マルチ・トレーサー法の開発——

154. 伊藤昭三・松崎純枝(大阪府大・工)・河野仁(大阪市):道路を発生源とする物質の拡散
 155. 佐橋 謙(岡山大・教育):都市気象の観測における自動車の影響
 156. 講演中止
 157. 村野健太郎・泉克幸・水落元之・鶴野伊津志・若松伸司・奥田典夫(国立公害研):関東地方上空でのエアロゾルの水平分布とオゾン濃度との相関
 158. 鶴野伊津志・若松伸司・奥田典夫(国立公害研)・鶴田治雄(横浜市・公害研)・玉井邦宏(埼玉県・公害センター):光化学大気汚染質濃度の立体分布と気象の関係——1979年の航空機観測について——
 159. 鈴木 陸・若松伸司・奥田典夫(国立公害研)・古塩英世(川崎市・公研)・昆野信也(埼玉県・公害センター):光化学大気汚染気塊の変質過程について——1979年航空機観測について——

160. 若松伸司・奥田典夫(国立公害研)・五井邦宏(埼玉県・公害センター)・畠野昌治(日科技研): 関東地方における気流分布と大気汚染濃度分布——夏季の季節風が弱い場合の解析——
161. 若松伸司(国立公害研)・畠野昌治(日科技研): 関東地方における地上風系分布の地域特性——PCA(主成分分析)による解析——
162. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・佐藤洋子(九大・工): 地震噴火時の空振と対流圏の共鳴
163. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・佐藤洋子(九大・工): 地震前後に現われる豊旗雲と白虹
- 第2会場 熱帯気象・台風**
- 座長 山岬正紀
247. 黒田雄紀・小佐野慎吾・南條政弘(気象衛星センター): GMS 資料による SUB-HIGH 縁辺の帯状積乱雲の解析
248. 村上勝人(気研・台風)・加藤一靖(衛星センター): GMS 赤外放射資料からみた大規模積雲活動の変化
249. 石原正仁(気研・台風): 西太平洋熱帯海洋上のレーダーエコーの分布特性
250. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): インド洋モンスーン領域上空の30-50日周期の擾乱(続)
251. 神本祐治(京大・防災研)・安成哲三(京大東南アジア研究センター): モンスーンアジアにおける夏期降水量の経年変動
252. 新田 勲(東大・理): 夏季モンスーン期の熱源決定
253. 北出武夫(気象庁・電計): β 平面上での渦の移動についての数値的研究
254. 大河内芳雄(気象庁・電計): 台風3次元モデル(Split-explicit, MNG)による進路予報と初期修正法について
255. 清水喜允(気象衛星センター): 上層の西進波動と台風発生
256. 中村健次(気象衛星センター): 上層の高気圧性循環と台風の発生
257. 清水喜允(気象衛星センター): 台風の雲活動と中心気圧
258. 村松照男(気研・台風): 湿度場から見た台風の温低化
259. 阿部成雄・遠峰菊郎・中澤寧(防衛大): 台風の移動についての統計的考察
260. 杉浦茂・塚田清(気研・台風): 台風に伴う降雨のポテンシャルについて(その2)
261. 倉島 厚(気象庁・業務): 死者数からみた近年の風水害の特徴について
- 第3会場 放射**
- 座長 荒生公雄
349. 佐藤隆夫(長崎大): 大気の第三次散乱光の計算結果(3)
350. 佐藤隆夫(長崎大): 大気中の第三次散乱光の計算結果(4)
351. 内山明博・田中正之(東北大・理): 中間圏における赤外放射の伝達(Ⅲ)衝突過程について
352. 三田昭吉(名大・水圏研): エアロゾルの消散・散乱係数の湿度変化と物質構成との関係
353. 浅野正二(気研・高物): 水平面内でランダムに方位した回転楕円粒子の光散乱特性
354. 荒生公雄(長崎大・教育): 2つの混濁係数 τ_g と β の間の関係
355. 嘉納宗靖・宮内正厚・鈴木正・八尾孝(気研・高物): 海から発する短波長放射におよぼす大気の影響の陸去(第2報)
356. 青木忠生(気象衛星センター): TIROS-N 衛星において雲のある視野から晴天放射を求める方法について
357. 箕浦宏明・岩坂泰信(名大・水圏研): 黄砂現象とその大気光学的影響(part 2)
358. 田中正之・中島映至・山野牧(東北大・理): 大気中エアロゾルの depolarization factor 測定
359. 田中正之・中澤高清・深堀正志(東北大・理): 水蒸気近赤外吸収帯の吸収特性
360. 村井潔三・小林正治・浅野正二・後藤良三(気研・高物)・山内豊太郎(気象庁・測候): 下層大気中における波長別日射吸収の測定
361. 田中正之・中澤高清・中島映至・塩原匡貴(東北大・理): 大気消散係数および太陽周辺光強度の分光観測
362. 三宅勉・大越延夫・小畑実・一木明紀・鈴木剛彦・忠鉢繁(高層気象台): 太陽の特定高度角における紫外線量の季節変化等について
363. 及川武久(筑波大・生物科学)・一木明紀(高層気象台): 湖面, 森林面, 芝生面での各種放射項

の相互比較と、その表面温度の推定

364. 山内 恭・和田誠・前晋爾・川口貞男(極地研):

POLEX-South 南極みずほ基地における放射観測 3. 短波長放射の特性

大会第3日(5月29日) 13時30分~17時00分

第1会場 衛星資料の利用・総観気象

座長 山下 洋

164. 杉本清秋・中村健次(気象衛星センター): VISSR データ画像処理コンソール出力システムについて
165. 阿部勝宏(気象衛星センター): GMS算出の海面水温の客観解析における基準温度場の改良
166. 柏木啓一(気象庁・電計): 客観解析への利用の立場にたった衛星雲移動ベクトルとゾンデデータの比較
167. 久保田効(気象庁・電計): GMS雲量から推定される相対湿度の評価
168. 多田一正(気象庁・電計): 湿数初期値解析への衛星(TIROS-N)資料利用
169. 久保田効・古賀晴成・青木利夫・遠藤有礼・湯本幸治・長田芳一・二宮洗三(気象庁・電計): 衛星と地上から観測した全雲量の比較およびその客観解析の試み
170. 里見 穂(気象衛星センター): 静止気象衛星「ひまわり」, デジタルレーダ及びアメダス雨量との比較—雷雲の場合—
171. 中村和信・土屋喬(気象衛星センター): GMSデータとアメダス降水量データとの対応について
172. 柏木啓一(気象庁・電計): 最適内挿法による北半球客観解析(1)
173. 平木 哲(気象庁・電計): 最小二乗近似による成層圏データの客観解析 I
174. 大野久雄(気象庁・電計): 圏界面高度を表現する重回帰式とその補正
175. 間宮嘉久・近藤洋輝(気大): Split-explicit scheme に基づく計算法に, ノイズの減衰法を導入した時間積分の特性について
176. 増田善信(気研・予報): E-格子系に対するエネルギーおよびエンストロフィー保存スキーム
177. 山岸米二郎(気象庁・電計): 広範囲に雷雲が発生する状況の数値シミュレーション
178. 土屋 喬(気象衛星センター): 大陸を広く覆う雲の生成について

179. 饒村 曜(気象庁・予報): 北海道における PoP 精度

第2会場 気候

座長 河村 武

262. 小元敬男・鱧谷憲(大阪府大・農): 気候データに含まれる都市気候の影響度の評価の試み(5) 都市気候が観測点における気候の変動特性に及ぼす影響(1)
263. 田宮兵衛(気研・予報): 東京の都市気温について
264. 米谷恒春(国立防災センター): 東京の都市域における8月の大雨日数の増加
265. 北出寿江(気研・応用): 工業活動と降水量の変化(II)
266. 一木明紀(高層气象台): 1980年夏の低温と日照不足について
267. 藤田敏夫(気研・予報): 1980年冷夏のブロック現象の解析
268. 青木 孝(気研・予報): 梅雨前後の半旬海面気圧の季節変化について
269. 加藤内蔵進・浅井冨雄(東大・海洋研): 日本海における大気と海洋の熱収支—季節変化—
270. 渡辺和夫(気象衛星センター): 地域平均雲量の日変化特性について
271. 那須田宏(京大・理): GMS雲量データを用いた雲の地表気温に及ぼす影響の統計的解析
272. 中西 朗(新潟市立東青山小): プラゴンチエンスク地方の寒気と瓢湖(新潟県)の白鳥最高羽数(1)
273. 吉野正敏(筑波大・地球科学): 東アジアにおける湿潤気候・乾燥気候分布の年々変化
274. 力石國男・佐藤誠晃(弘前大・理): 北アメリカの冬季の気温変動
275. 大和田道雄(愛教大・地理)・神谷俊彦(愛教大・院)・細野正俊(稲沢市立高御堂小): 環境教育への気候学的アプローチ—豊田市の気候環境—

276. 赤井清康 (海洋気象 K.K.): 暖房中止後の自然冷却の方程式の解について
277. 播磨屋敏生・菊地勝弘 (北大・理)・堀江成人 (北大・環境): 北海道有珠山における泥流発生にかかわる降雨特性
- 第3会場 雲物理**
- 座長 武田 喬 男
365. 権田武彦・小池哲也・鈴木義紀 (東理大・理工): -30°C ~ -40°C で成長する単結晶氷晶の成長速度と成長形
366. 北大理学部雲物理研究グループ: エネルギー分散形X線マイクロアナライザーによる雪結晶の中心核の測定
367. 岩井邦中 (信州大・教): 板状の雪の結晶の3次元的な微細構造 その2
368. 山下 晃・柏原 嘉二 (大教大): ヘリウムガス中で成長する霜
369. 高橋忠司 (埼玉大・教育): 低温度領域における凍結水滴の成長
370. 大谷 健 (名大・水圏研): 雲核に形成した水滴の成長速度と蒸発速度の同時測定
371. 武田喬男・藤吉康志 (名大・水圏研)・菊地勝弘・坪谷成行 (北大・理): 冬期北極圏カナダの雲と降水の特徴 (POLEX-NORTH)
372. 菊地勝弘・坪谷成行・佐藤昇・遊馬芳雄 (北大・理)・武田喬男 (名大・水圏研): 冬期北極圏カナダの降雪粒子 (POLEX-NORTH, その3)
373. 藤吉康志・武田喬男 (名大・水圏研)・菊地勝弘 (北大・理): 冬期北極圏カナダにおける降雪雲のレーダーエコー構造と雪結晶の観測 (POLEX-NORTH)
374. 加藤喜久雄・樋口敬二・武田喬男 (名大・水圏研): 冬期北極圏カナダの降雪の酸素同位体組成 (POLEX-NORTH)
375. 松尾敬世・佐粧純男 (気研・物理)・佐藤靖裕 (埼玉大・理): 0°C 高度より下で起こるアラレの融解について
376. 横山辰夫・降水物理観測グループ (名大・水圏研): 融解層中での降水粒子の併合・分裂過程——富士山における融解層の観測——
377. 武田喬男・樋口克志 (名大・水圏研): 巻層雲のミリ波レーダーによる観測
378. 藤原美幸・石原正仁 (気研・台風): 吸湿核のスペクトルの差による活性化雲粒スペクトルの変化について
379. 原田奈遠美・武田喬男 (名大・水圏研): エアロゾルが shallow cumulus cloud の微細構造に及ぼす効果 (3) 大雲粒の形成について
380. 椎野純一 (気研・台風): 凝結時の雲粒スペクトルが積雲の降水発達に及ぼす影響について

注) 156, 324は講演取り消しのため, 予稿集は欠番です.